

エベネゼル緊急基金



EBENEZER
OPERATION EXODUS

なぜ神はイスラエルを 回復されているのか？



【神】である主はこう言われる。イスラエルの家よ。わたしが事
を行うのは、あなたがたのためではなく、・・・わたしの聖なる名
のためである。・・・わたしはあなたがたを諸国の間から導き出
し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。

エゼキエル書36章22-24節

神はなぜイスラエルを回復されるのか？



国際



ヨハネス・バーテル
ヨーロッパ、FSU (旧ソビエト連邦) およびイスラエルの地域コーディネーター

「良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあつて、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神は王であられる」とシオンに言う人の足は。」イザヤ書52章7節

教会にアリヤーのメッセージを伝えるために、まず私たちが考えるべきことは、なぜクリスチャンにイスラエル回復の教えを伝える必要があるのかという点です。

最初に、聖書は私たちに警告しています。黙示録22章18-19節において、神の啓示された計画に加えたり、取り除いたりしないようにとされています。これは黙示録に限ったことではなく、聖書全体に関することであり、神が世界のために持つ計画を理解するには、まずイスラエルに関する具体的な計画を理解する必要があります。

パウロはテモテへの手紙第一4章1節で、終わりの時に信者たちが惑わす霊や悪魔の教えに惑わされ、信仰から離れると警告しています。キリスト教の中で最も有害な教えの一つは、「神はイスラエルとの関係を終え、教会に置き換えた」というものです。神が約束したすべてのことを100%実現されないと説くことは、不信の霊を植え付けることになります。すべての神の約束が「はい」と「アーメン」であると教えないならば、教会員が主への信頼と希望を持って生きることを期待することはできません。

過去14年間、私はイスラエルに関する神の計画を教えることに専念してきました。このメッセージを聞いて個人的な信仰が強まったと感謝するクリスチャンたちと多く出会いました。

アリヤーのメッセージを教会に伝えるべきもう一つの理由は、ユダヤ人を具体的に祝福する方法を示すためです。創世記12章の古い約束「イスラエルを祝福する者は祝福される」は、今も変わらず有効です。神のことがばが信者にとっての糧であると信じ、神が子供たちに与えたい豊かな糧を控えるなら、彼らは「幼児」のままかもしれません(ヘブル5:13)。

アリヤーについて教えないことは、神の御性質についての理解が不足していることをも示しています。民数記23章19節では「神は人ではないから、偽りを言うことがない。人の子ではないから、悔いることがない。神が仰せられたら、実行されないだろうか。語られたら、成し遂げられないだろうか。」と書かれています。

もし私たちがこれをイスラエルに当てはめて、この地はもはやユダヤ人のものではなく、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約が無効だと主張すれば、「神は嘘つきだ」と言うことになってしまいます。これは本当に伝えられるべきメッセージなのでしょうか？

イスラエルの回復について語り、支援するもう一つの理由は、神が全世界にご自身を示した



写真
上と下:アウトリーチチームがヨーロッパの教会で分かち合っているところ



いと願っているからです。イスラエルの回復と世界のリバイバルには多くの聖書のつながりがあります。以下の2つの箇所を見てみましょう。

「・・・そして、わたしの聖所が永久に彼らの中にあるとき、諸国の民はわたしがイスラエルを聖別する主であることを知る。」

エゼキエル書37章24-28節

「しかし【主】よあなたはとこしえに御座に着いておられます。あなたの呼び名は代々に及びます。あなたは立ち上がりシオンをあわれんでくださいます。今やいつくしみの時です。定めの時が来ました。・・・こうして国々は【主】の御名を地のすべての王はあなたの栄光を恐れます。なぜなら【主】はシオンを建て直しその栄光のうちに現れ・・・」

詩篇102章12-16節

教会にこの素晴らしいメッセージを伝えるために、次のようなステップが考えられます。

まず祈りから始めることが重要です。クリスチャンの間で置換神学が広がってしまったことを悔い改め、赦しを願うことも大切です。ま



た、信者の中にはイスラエルやユダヤ人を神様よりも高い地位に置いてしまっている人もいることの赦しを求めることができるでしょう。イスラエルのことを教えたいという強い願いによって、中にはイスラエルの地やイスラエルの人々を偶像礼拝してしまっている場合もあります。そのような人たちは、ガラテヤ書ですでに述べられているように、ユダヤ人ではない人をユダヤ教徒にしようしたり、たとえば、割礼を受けるように言ったり、聖書には書かれていない戒めや儀式や律法に従わせようとしている人もいます。

イスラエルへの神の計画を宣言する際に批判を受けることも覚悟しなければなりません。私たちが反ユダヤ的なプロパガンダに影響を受けた信者に公然と批判されることもあります。私たちが、謙虚であり、裁くような話し方はすべきではありません。私たちは神様が私たちのために用意してくださった働きをするだけです。ですから私たちは何も押し付ける必要はありません。忍耐を持って、小さなことに忠実にあるべきです。

私たちはいつも、主が宣教のために開かれた扉を見つけて、そこで分かち合っていたいのです。たとえそれが小さなハウスチャーチであっても、何千人も集まる大きな教会であっても、違いはありません。

すべてにおいて、私たちは主の栄光を求めていくべきです。何かの働きを拡大するのではなく、私たちはこの働きを通して、神様の御計画を宣言していくのです。エベネゼルは私たちが活動するための法的および組織的な構造を提供するための道具にすぎません。

アリヤーのメッセージを他の人に伝えていく皆さんを励ましたいと思います。そして、皆さんがされている働きに感謝します。それは永遠の報いをもたらすでしょう。

用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関 (Jewish Agency):

ユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人

クリタ (Klitha)

吸収を意味し、イスラエルに到着したオリムたちの生活を確立させること。ヘブライ語の学び、就職、住居、学校、IDFへの従事など。

写真

上:多くのフランス人のオリムが住んでいるイスラエルのネタニヤの景色

下:アウトリーチチームがヨーロッパの教会で分かち合っているところ



隣人を愛する

スイス



ジョーダン
ボランティア

20時間以上の旅を経て、「ウクライナのマルセイユ」とも呼ばれるオデッサに到着しました。ここはエベネゼルの物語が30年以上前に始まった場所であり、私のこの団体での活動もここから始まります。

ヤンヤ、ケイト、ジェラルディーヌ、そして私は8日間にわたり、3つの主要な目的で活動しました。困窮するユダヤ人の方々へ食料支援物資を届け、家庭訪問を行い、エベネゼルの活動を彼らや地元の教会に紹介するためです。

私たちは様々な人々と出会い、多様な物語を耳にしました。オデッサの住人、他の都市からの難民、孤独な人々、大家族、最前線の悲劇で夫を亡くした女性たち、そして子どもを一人で育てる父親たち…。16歳の青年に食料支援物資を渡したとき、彼は「これがどれほど助かるか…」と話してくれました。私たちの存在は単なる形式的なものではなく、心からの気遣いが人々の心に響いていました。

ケイトが私やジェラルディーヌを人々に紹介すると、彼らの顔が明るくなりました。遠い国から彼らを祝福するために来たと伝えるだけで、彼らの心に届くものがありました。自分が見過ごされていない、涙が無駄ではなかったと感じてもらえたようです。

生きた、いつくしみに満ちた神が彼らの声を聞き、不完全であっても愛と希望のメッセージを届けるために彼らを遣わしているの

です。それこそが弟子としての使命ではないでしょうか？闇が覆うこの世界が苦しみと悲嘆しか与えない中で、私たちは希望と命の光を運ぶ役割を担っているのです。ただユダヤ人の兄弟姉妹を助けるだけではなく、私たちの神との関係を隣人に日々反映させる生き方が求められているのではないのでしょうか。今日、私は誰に祝福をもたらせるのでしょうか。どの闇に神の光を届けるべきでしょうか。

私はスイスを発つとき、特に期待はしていませんでしたが、帰る頃には神と隣人に仕えたいという思いがこれまで以上に強くなりました。愛していた祖国に加えて、さらに二つの国を心から愛するようになったのです。ジェラルディーヌは母の友人でしたが、今では私の友人でもあります。思いやりに満ちた人々を知り、ケイトという存在を知ることができました。ヤンヤは以前は見知らぬ人でしたが、今では祖母のような存在です。



写真：
ジョーダン、ケイト、ジェラルディーヌはウクライナのユダヤ人コミュニティに人道支援を届けています

南アフリカにおける子どもたちの活動

子どもたちは物語が大好きで、特にそれがパペットによって語られるとさらに興味を示します。私たちはパペットを使って聖書の物語を伝え、ユダヤ民族とイスラエルに対する神の計画について子どもたちに教えています。

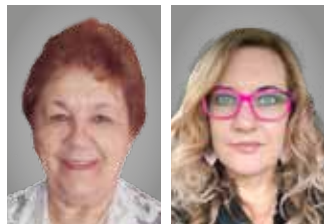
これらの物語を通じて、信仰者としての私たちがユダヤの人々に対してどのような責任やつながりを持っているかを、子どもたちがより深く理解し、感謝することができるようにしています。

私たちの物語は、聖書の話の登場人物たちがイスラエルを支援することの重要性や、

神が彼らに約束の地へ戻ってほしいというメッセージについて話し合う内容になっています。また、バラムの話のように、イスラエルを祝福し、呪わないことを教えています。

子どもたちはこのパペットショーをとっても楽しんでおり、特に「バラムのロバ」は大人気です。他にもアブラハムとサラ、エステル、そしてイエスがロバに乗ってエルサレムに入る場面の物語などもあります。私たちは学校、幼稚園グループ、日曜学校などに訪問し、子どもたちが集まるどんなイベントにも参加しています。教師たちも子どもたちと同じくらいこの活動を学び、楽しんでいます。

南アフリカ



アリダ・ショウルツ & リゼル・ファン・デル・メルウェ
南アフリカチーム

恐れと不確実性に立ち向かって

アルゼンチン出身のダニエルと息子のエミリアーノはアリヤーすることを決意し、恐怖や戦争に阻まれることなく、その夢を追い続けました。

ダニエルは警察で心理学者として暴力やトラウマの被害者を支援していましたが、友人からエベネゼルについて聞きました。アリヤーのプロセスを通じて、ダニエルは個人的にも励まされ、官僚的、言語的、物流的な困難を乗り越える術を学びました。

書類が承認されると、ダニエルは「2023年10月10日にイスラエルへ飛び立つ!」と興奮して知らせてくれました。しかし、出発のわずか3日前、イスラエルで多くの死傷者を出

した恐ろしいテロ攻撃の報道がありました。

恐れが心に根付かないよう努め、彼らは飛行機に乗り込みました。アリヤーには信念と献身が必要であり、不確実性に直面しながらその道を進み続ける意志が試されるのです。

イスラエルに到着したダニエルとエミリアーノは、オリムのためのハイファハウスで2週間を過ごし、スタッフやボランティアから愛情と支援を受けました。彼らはイスラエル社会への統合を進めており、ダニエルは自身の経験を生かして、戦争の影響からの人々の回復を支援する活動にもすでに参加しています。アム・イスラエル・ハイ! (イスラエルの民よ、生き続けよ!)

アルゼンチン



ラウル・ルイエ
エベネゼル・アルゼンチン
代表



写真:
ジョーダン、ケイト、ジェラルディーヌはウクライナのユダヤ人コミュニティに人道支援を届けています

イスラエルの幸福

祈り



フィオナ・ストウッケン
アジア太平洋祈りコーディネーター

イエスは私たちの偉大な大祭司であり、彼は私たちを神に贖い、その血によって私たちを神のものとし、すべての部族、言語、民族、国民(※1)の中から、王国と祭司としてくださった方です。彼の祭司職は変わることなく、「したがって、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。いつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」(※2)

(同時に私たちは聖なる祭司であり、「生ける石」の「霊的な家」で、すべてが「尊い要石」(※3)につながっています。私たちが彼と一致すると、聖霊は私たちのうちに、また私たちを通して彼の祭司のとりなしの働きをますます引き出すことができるようになります。(※3)

エベネゼル出エジプト作戦は、預言的な使命をもったとりなしの働きです。

私たちは、ユダヤ人がイスラエルに帰還するための祈りの道具となるよう召されました。しかし、とりなしとは祈り以上のもので、人や民のために代弁し、彼らの必要が満たされるよう努めることを意味します。

イエスは私たちのために罪となられ、私たちがこの方において神の義となるために(※4)、人間性を完全に分かち合い、私たちの完全な贖いのために代価を払ってくださったのです。彼の死と復活を通じて完全な勝利を収めたイエスは、今も神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしをしてくださるのです。(※5)

とりなしの働きとして、私達は以下を行います：

- イエスが私たちと共にあったように、ユダヤの人々と共にあることを約束します。
- 彼らの必要を満たすために、彼らのアリヤーを支援し、助けます。
- 先代の祈りに基づき、将来の世代が祈れるような場を得ることを目指します。

祈りと实际的な支援は、私たち全員が一端を担うことができるとりなしの一環です。

聖霊は「神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物(※6)…」と自らを捧げる者を通して地上でとりなすお方です。聖霊は私たちを祈りの場へと導き、さらに私たちに特定の使命を与えます。これは個人としても、エベネゼル出エジプト作戦という団体としても同様です。聖霊は、祈りの中で「アリヤーの道」を備える使命、そしてユダヤ人がイスラエルに戻る際に愛と慰め、助けを提供する使命を与えてくださいました。祈りと实际的な支援は、私たちがユダヤの人々と共にある決意の表れです。

敬虔なユダヤ人がペルシャに住んでいました。冬のある日、彼の兄弟が到着し、心を痛める知らせを伝えました。エルサレムの困難と恥辱について聞いたネヘミヤは、深い悲しみに心を痛め、数日間泣き、断食し、祈りました。ネヘミヤはペルシャに住んでいましたが、彼の心はエルサレムにありました。それはハマンがユダヤ人を根絶しようと企てから約30年が経過した頃で、その記憶はまだ新しいものでした。まさに彼の神が若いユダヤの少女を女王にするとい

EBENEZER INTERNATIONAL CONFERENCE

Jerusalem 17-22 November 2024

BOOKINGS
OPEN

Light in the Darkness

Isaiah 60:1-2

Booking Information : www.ebenezer-oe.org/events



EBENEZER
OPERATION EXODUS



う奇跡を起こしたおかげで、ネヘミヤが仕えていた宮殿でこの災害が回避されたのです。

ネヘミヤは神を知り、聖書も知っていました。彼はユダヤとエルサレムの人々と一体化していたため、聖霊が彼の心に負わせた重荷はただ一つの道に至りました。ネヘミヤは主の前にへりくだり、とりなしを始めたのです。彼は主がモーセに語り、回復の方法を示したことを知っていたため、ネヘミヤは自身と人々の罪を告白し、主に約束を思い起こさせ始めました(※7)。

次の4か月間、ネヘミヤは祈り、主を求めました。そうするうちに、聖霊が彼の心に使命を与えられました。それはエルサレムに戻り、城壁を再建するというものでした。この使命は、彼が自分の民に対して持っていた強い思いから生まれ、祈りの中で宿り、祈りを通して支えられ、ネヘミヤの生涯全体を貫きました。

この使命には敵対もありましたが、始まりから終わりまで信仰の旅でした。

主はネヘミヤに恵みを与え、王は彼の願いを許し、必要な物資を提供し、さらに武装した護衛もつけました。しかし、彼がエルサレムに到着したという知らせが広まると、一部の人は「これを聞いて非常に不機嫌になった。イスラエル人の益を求める者がやって来たからである。」(※8)。

当時も今も同様です。ユダヤ人を助けたいと願う者に対する霊的な敵対は、嘲笑、軽蔑、怒り、虚偽や誤った非難の形で現れます。

ネヘミヤはいつも主に助けを求め、忍耐強い祈りを通じてその使命を果たすことができました。ネヘミヤが預言者サムエルの言葉を思い出し、「ここまで主が私たちを助けてくださった」と言った日があったかもしれません(※9)。

ネヘミヤは一人の人でしたが、彼は一人で行動したわけではありません。主は共に祈り、見守り、共に働くために他の人々を彼のそばに置いてくださいました。私たちは、主の聖なる「祭司」として心を合わせ、イスラエルの回復と運命に関する御言葉の多くの約束を主に思い起こさせるために、エベネゼルに与えられた使命に貢献することができます。主はそれを行い、私たちはその働きに参加することで祝福されています。

- ※1. ヘブル書 8章1節、黙示録 5章9節
- ※2. ヘブル 7章25節
- ※3. 1ペテロ 2章4-6節
- ※4. 2コリント 5章21節
- ※5. ローマ 8章34節
- ※6. ローマ 12章1節
- ※7. ネヘミヤ 1章5-9節、
レビ記 26章40-45節、申命記 30章2-5節
- ※8. ネヘミヤ 2章10節
- ※9. 1サムエル 7章12節

DO YOU USE TELEGRAM?



FOLLOW OUR PUBLIC CHANNEL & NEVER MISS AN UPDATE!



OR
Use the search function inside the Telegram App: Ebenezer Operation Exodus

Launching: Children's work!



Ebi's Adventures

Join Ebi as he learns about God's love for the Jewish people!

New stories & activities with every Bulletin!
Download our resources now!



www.ebenezer-oe.org/children

必要を覚えるとき

イスラエル



コリン・ロス
イスラエルチーム

エバとピョートルは5人の子供を連れて2年前にイスラエルへアリヤーしました。イスラエルで生まれましたが、幼いころに家族と共にロシアへ戻りました。彼女は常にイスラエル国籍を保持していたので、彼らのイスラエルへの帰還は比較的簡単だと思われました。

しかし、ピョートルには長年経ってもまだ永住権がありません。それでも彼には働く権利があり、低賃金の仕事を懸命にこなして家族を支えようとしています。

彼らの家計が特に厳しいとき、ごくたまにエバはアンナに助けを求めることがあります。アンナはエベネゼル団体パートナーとして、エルサレム事務所のシュロミットと頻繁に連絡を取り合っています。シュロミットもこの家族のことを知っています。彼らと会う機会は非常に少ないです。

最近、シュロミットが道でエバと彼女の幼い子供たちに会い、その後すぐにアンナから連絡があり、家族が助けを必要としていることを伝えました。「ピョートルは働ける時間すべてを使って働いているのですが、それでも十分ではありません。どうしても払えない電気代があるのです。」

シュロミットの良き友人で、神の導きを感じて修道院生活を選んだカティアは、サマリア（ヨルダン川西岸）でアラブ人のカトリック信徒と共に生活の大半を過ごしています。最近、シュロミットに電話をかけてこう言いました。「私はアラブ人のキリスト教徒と多くの時間を共にしていますが、だからといってユダヤ人のことを気にかけていないわけではありません！困っているユダヤ人の新しいオリ

ムの族のために、エベネゼルの寄付を手配する手伝いをしてもらえますか？」

その後すぐにシュロミットは再びエバと道で出会いました。エベネゼルのチーム会議で彼女は「エバとピョートルを再び助けてもいいでしょうか？」と尋ねました。チーム全員の返答は圧倒的な「はい」でした。カティアの寄付のおかげで、私たちは再び家族を支援することができました。

エバは非常に活発な3歳の子供と共にエベネゼル事務所を訪れ、「これはなんと大きな恵みでしょう！ありがとうございます！」と言いました。エバは感謝しながら去り、シュロミットは小さなコーリヤが事務所の家具を壊すことなく済んだことに感謝していました。

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

ローマ人への手紙8章28節



Operation Exodus
Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus



エベネゼル緊急基金日本支部

〒005-0006札幌市南区澄川6条3丁目
2-4-302(岡田方)
Tel: 011-813-3558(岡田)
paginamaestro@hotmail.com
http://eefj.org
郵便振替(名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus（出エジプト作戦）はエベネゼル緊急基金の実際的な働き の名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。